

す が お

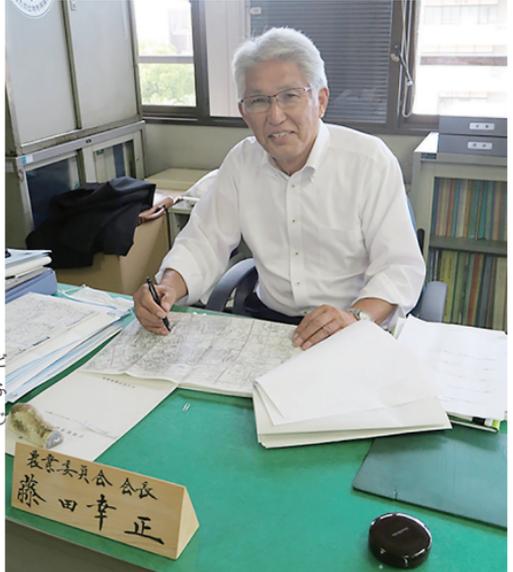
18

わがマチの委員さん

【愛媛】「新居浜市は製塩業と別子銅山とその関連事業で発展してきた臨海工業都市。銅山業が近代化していく明治初期の様相が近代化産業遺産群として残っている歴史を感じられる町」と話すのは、同市農業委員会を会長を務める藤田幸正さん(73)。農業委員を7期務め、会長職は今年で6年目になる。

「昔から零細な兼業農家が多い」と話す藤田会長は、自身も兼業農家の次男として生まれ、大学卒業後は造園業を営む傍ら、ミカンや水稻栽培を営んできた。現在は、市議会議員として市政に携わりながら、息子夫婦が専業農家として営む農業経営を手伝っている。

「何でも好きと思って楽しまんと損よ」と朗らかに話す藤田会長は、こ



「最近の法改正に対応し委員自身の研さんが必要」と話す藤田会長

「土不二」を思う」と藤田会長は話す。いわゆる地域スポーツ、消防団などさまざまな運営、世話役を引き受けてきた。農業委員もそうして引き受け業との距離を感じているが、「最近、特に『身』という。

地域の産物食べる生活を

「残せる農地とそれ以外の農地との住み分けは大切だが、土地持ち非農家といわれる人が、簡単に農地を荒らすのではなく、少しずつでも農産物を栽培して産直市などに出荷してくれるようになれば、農地の維持管理にもなるし、生産者と消費者がより近い関係になると思う」と熱く語る藤田会長。「生きるために欠かせない『食』だからこそ、その土地で育まれたものを食べる生活をする人が増えてほしい」と願ってやまない。

新居浜市 藤田 幸正さん

「身土不二」で農地維持願う